


地域情報化アドバイザープロフィール

ふりがな	つぼた ともみ		
氏名	坪田 知己		
所属・役職	内閣府 地域活性化伝道師 公益財団法人 日本記者クラブ 会員		
活動拠点	横浜市を拠点に全国		
略歴	1972 年 日本経済新聞社入社、記者、電子メディア局次長、日経メディアラボ所長を経て、2009 年定年退職。 2003 年から 7 年間、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特別研究教授を兼任。 2012 年から 2020 年 3 月まで、京都工芸繊維大学シニアフェロー 2012 年から、内閣府・地域活性化伝道師(現職)		
地域情報化の専門分野・技術	<ネット時代のわかりやすい文章の指導> ネット時代には、わかりやすく、短時間で理解できる情報でなくてはなりません。 「21 世紀の共感文章術」は、そうした要請に応えた文章術です。2011 年から 10 年間で 2000 人を指導し、99%の受講者が文章力を向上させました。 ブログの文章や、ホームページの文章を、簡潔でインパクトのあるものにしていきましょう。		
専門分野	教育情報化／情報教育 働き方 地域ビジネス 観光		
自治体向けメッセージ	群馬、福井、千葉、東京、静岡、京都、和歌山、兵庫などで、地域情報発信、高齢者を相手にした子供の聞き書き指導をして、大きな成果を生んできました。このような要請に応えたいと思います。		
関連サイト			
地域情報化に関する実績	これまでの経験業務・研究活動	2003 年から 2009 年まで、日本経済新聞社で「日経地域情報化大賞」の運営責任者を務め、地域情報化の成功事例を収集した。 2011 年に刊行した『ふるさと再生』(講談社)のため、全国各地の成功事例を現場で取材した。 慶應義塾大学 國領・飯盛研究室で、地域情報化の研究をする学生を指導(現在も)。 地域情報化アドバイザーとして、群馬、福井、千葉、東京、静岡、京都、和歌山、兵庫などで、地域情報発信、高齢者を相手にした子供の聞き書き指導をして、大きな成果を生んできた。	

これまで に 関 与 し た 地 域 情 報 化 に 関 する プ ロ ジ ェ ク ト		<p>2012 年に、東京・杉並の和田商店街の活性化プロジェクトに参画した。同商店街は、2016 年度東京都商店街グランプリ、2017 年中小企業庁「はばたく商店街 30 選」に選ばれた。</p> <p>具体的には、産休中の女性に文章の書き方を教えた。彼女たちが商店主をインタビューし、その文章を新聞、ホームページに掲載したところ、消費者と商店の距離が縮まり、イベント開催などでつながりが深まっている。</p> <p>2006 年以降、全国の地域 SNS の活動に参加し、地元名産品の紹介などを行っている</p>
--	--	--